

団体名	現状	課題と提案
子ども会	○子ども会を組織して維持していくことが難しくなっており、市子連に加入する子ども会も減少している。	○子どもからお年寄りまでが一緒になってうまくコミュニティを作っていくことが大切である。
	○子ども会だけでなく、地域の活動と一緒に参加することにも重点を置いている。	
	○趣味や価値観の多様化で、子ども会加入者が減少している。	○共働き世帯でも子どもを預けられるという「子ども会の価値」や「社会経験ができる場」であることへの理解を深める情報発信をしてはどうか。 ○活動の質的な転換が求められる。
	○親が役員をやりたくないの、子ども会に入らないことが多い。	
	○市子連は会議の数や役員を減らすなどして、単子の負担を軽減するよう改革をしてはいる。	○働く母親が多くなり、役員をすることが難しくなっている。 ○働く母親が子ども会の活動をするは大変なので、経験のある人が孫のために力を貸すことができればよいのではないか。
	○組織を拡大して子ども会を活性化したい。	
	○子ども会のないところに子ども会を作る働きかけやサポートをしている。	
	○単独(市子連に加入していない)子ども会に市子連に加入を呼び掛けたいが市から単独の子ども会の情報はもらえない。	○市から柔軟に情報提供してほしい。
老人クラブ	○会員が増えず、春日井市の老人クラブ加入率は県内でワースト3である。	○町内会や子ども会、社会福祉協議会などと横の連携を図りながら活性化していく必要がある。
	○老人クラブという名前に抵抗があるため「いきいきクラブ」という愛称をつけたが、活動内容が変わらないため、加入してもらえない。	○本人にやる気がなければ続かないので、やる気を起こさせるような楽しい情報を流す必要があるのでは。 ○これまで働いてきた知恵を出し合いながら、地域の人たちに役立つような「コミュニティビジネス」を展開する方法もある。
		○青年会議所の若い企業経営者の方々との連携などを、制度的に担保できればよい。
青年会議所	○様々な事業をする中で、新たに行われる事業はなかなか情報として伝わらないため、広告費に全事業費の4分の1を使っている。	○広告費にかかっている経費をもっと事業へ回せば、より質の高い事業、規模の大きな事業を行うことができる。 ○事業の情報を市民に伝えていくシステムづくりが必要である。
	○公益社団法人の取得に向け、より公益性のある事業を展開し、市民の皆さんに参加してもらわなくてはならない。	○参加してもらうためには広報活動・情報提供が必要になる。これまでに以上にマスコミや市との連携が必要となる。 ○青年会議所の会員が諸団体の手伝いをするというのも、公益事業になるのではないか。

団体名	現状	課題と提案
国際交流ネットワーク	○自分たちの活動が活動拠点(鳥居松ふれあいセンター)から、それぞれの地域に戻っていかない。	○どのように自分たちの活動を地域に広げていくのか。
	○国際交流ルームの存在が知られていない。 ○外国人にどのように情報を伝えていくのが課題である。	○外国人研修生を受け入れている企業の理解を、住民組織に向けた働きかけが必要だと思われる。
	○国際交流ルームや市役所の外国人相談窓口に来る人々への支援が中心で、ネットワークと地域との関係は薄い。	
区長町内会長連合会	○区・町内会と他の団体との交流があまりない。	
	○高齢化してきているが、負担が大きいためなり手が少ない。	○若い人の代表としてポストを作る。
高森台コミュニティネットワーク	○地域のために何かしようとする人は大勢いるが、どのように活動に携わっていけばよいのか分からない。	
	○活動に参加するようになって、がんじがらめになることは嫌がられる。	○活動に気軽に参加できると良い。
	○自分の思うようなときに思うことがしたいという人が多い。	
	○高齢化によってボランティアの人数が減ってきている。	○高齢化した地域をどのようにしたらいいのか。 ○若い人の代表としてポストを作る。
	○活動するボランティアの世代交代がうまくできていない。	○若い世代へ世代交代していくにはどうしたらいいのか。
	○活動がマンネリ化している	○どのようにすればみんなの関心を集めることができるか。
NPO法人 けやきフォーラム	○メンバーが高齢化してきている。	
	○どんどんと新しいパソコンが出ており、勉強しないと追いつかない。	
	○公民館などにインターネット環境が十分には整っていない。	○学校が使えるれば問題は解決するが、使用できない。
	○地域ごとに拠点を設けたいが場所がない。	○各団体が活動の場をセットしてNPO団体が出向くような仕組みがあると良い。
災害ボランティアコーディネーター連絡会	○どの地域でも活動がマンネリ化していると言われるが、当連絡会では1、2年で目先を変えることを意識している。	○これからの市民活動の推進は子ども、大人、老人すべてが一緒になって行うことが大切である。
	○当連絡会は市社会福祉協議会とタイアップして活動している。	
企業		○地域との生活のすり合わせが必要。
	○地域との関係が希薄になりがち。	○社会的貢献を“地元の地域団体をつながる”というところに目を向ける。

行政の役割	○どこまでの情報をきちんと公開するのか。
	○いろいろな団体が連携することのメリットのPR。
	○学校などを柔軟に使えるような仕組みづくりのアイデア。
	○団体が色々な専門団体とつながっていくという意識を持たせる。
	○企業の理解をどう住民組織に向けるかという働きかけ。

その他の課題	○「地縁型組織」「テーマ型組織」「企業等の社会貢献型組織」の3つの主体と市民の参加、そしてこれらの主体が行政と連携して、どのように市民活動全体を活性化していくのか。
	○「もう少し気楽に参加できるように」そのためにも「気楽に」とはどういうことなのかを考える。
	○現在は縦割り型の伝統・文化が市民の中にあり、横のつながりがむずかしい。縦割りの壁をどう乗り越えるのか。
	○「何かやりたい」、「やってもいい」という意識が行動に結びつかない。何がネックになっているのか。
	○市民活動をしたい人の力をどうつなげるのか。
	○情報が届いていない。みんなで一つのものを情報共有できていない。デジタルデバイド(情報格差)の解消が必要である。
	○団体の情報発信を支援するような団体が必要。
	○情報を受け取る側が最初から門を閉ざしてしまう。いかにアピールして情報を届けるのか。情報が来なければ住民の意識は高まらない。
	○情報公開については、補助金を交付する団体に事前に、団体名を公開することを通知しておけば自由に公開できるのではないかな。
○“ソーシャルビジネス”“コミュニティビジネス”の発想をもつと活動に厚みが出てくる。20代30代の若者が市民活動で生業をたてていくことにつながる。	

施策の方向 ヒント	○市は各団体が交流、連携し活動が促進される仕組みづくりを積極的に行う。
	○参加するには「どういうきっかけがあればいいのかわ」「何が手がかりになるのかわ」「どういう情報が相手をつなげる接点になるかわ」
	○人と人が少しでもつながれば活動に厚みが出てくるポテンシャルを備えている。
	○学校との連携や子どもたちへのメッセージ性を出す。
	○「心豊かで住みよい地域社会の実現」=子どもたちがそこに将来住みたいと思えるような地域。
	○活動(子ども会や学校との協働行事)を通して、子どもたちが地域の一員であることを実感できるとよい。
	○マンネリ化も否定的にだけ捉えるのではなく、活動を充実させるようなメッセージが示せればよい。